



インバウンド（訪日外国人）の増加による感染症への対応

感染管理認定看護師 高山 公利

ラグビーワールドカップ日本大会に続き、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。そのため日本を訪れる外国人が今後ますます増えることが予想されます。ワールドカップやオリンピックなど大勢の人が一か所に集まる「マスギャザリング」では感染症流行のリスクが高まると言われています。

渡航歴のない10代の男女が京都と奈良に修学旅行後に発熱などの症状が出て入院し、デング熱と診断されました。また、今年はインフルエンザが例年より早く流行期を迎えました。これらは、訪日外国人（インバウンド）により海外から持ち込まれた可能性も考えられます。

他には、結核・風疹・麻疹など飛沫や空気などでうつる感染症への注意が必要です。

山形県の多くの市や町が、東京オリンピック参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る目的で、ホストタウンとなっています。もしかしたら、普段あまり見かけない感染症が海外から持ち込まれる可能性も考えられます。日ごろの感染対策が大切になります。

感染対策

- ① 手洗いをしましょう。
- ② 咳エチケットをしましょう。
- ③ ワクチンを受けましょう。（インフルエンザ・風疹など）



- 口・鼻の両方を覆う
- 使用後のマスクは捨てる



- せきやくしゃみをするときはティッシュなどで口・鼻を覆う
- とっさの時は袖で口・鼻を覆う



- せきやくしゃみをするときに使ったティッシュはすぐに捨てる



- せきやくしゃみをするときは顔を他の人に向けない



- こまめに手を洗う（帰宅後、調理前後、食事前など）
- 感染した人もこまめに手を洗う（ウイルスを広げないため）

